報告書

2020年 新型コロナウイルス感染症
日本における緊急子ども支援

Save the Children



公益社団法人 セーブ・ザ・チルドレン・ジャパン

セーブ・ザ・チルドレンの国内での活動

新型コロナウイルス感染症が拡大し始めた 2020 年 2 月から、子どものこころのケアに関する情報発信や食料品の提供、ひとり親家庭への緊急支援拡充を求める行政への働きかけなど、さまざまな活動を実施しました。

2020年、世界で拡大した新型コロナウイルス感染症の猛威は、日本に住む子どもたちにも深刻な影響を与えました。一斉休校や感染予防のために、子どもたちが育ち、学ぶ環境は大きく左右されました。また、家計が急激に悪化し、食事を満足にとれない、進学をあきらめざるを得ないといった状況に置かれた子育て世帯も少なくありませんでした。

コロナ禍において、セーブ・ザ・チルドレンは、子どもたちの声にいち早く耳を傾け、子どもたちの成長や発達、教育への権利が守られるよう、さまざまな緊急支援を展開しました。活動を支えてくださった皆さまに心から感謝申し上げますとともに、2020年の活動とその成果をご報告します。

2021年3月現在、新型コロナウイルス感染症の脅威はまだ続いています。私たちは、長期化する影響の中でも子どもたちが健やかに育ち、夢を持てるよう、さらに活動を続けていきます。

2020年

新型コロナウイルス感染症
日本で感染者確認
1月

全国一斉休校
要請
2/27

手洗い方法の発信開始



感染症対策下の
子どもの安心・安全
パンフレット公開
3/2



緊急子どもアンケート
受付開始
（~3/31）
3/6

緊急子どもアンケート
速報版発表
3/27

7都府県に
緊急事態宣言
4/7

緊急事態宣言が
全国に拡大
4/16

こころのケアを動画で紹介



虐待・体罰等から
子どもを守るための
要望書を政府に提出

一斉休校措置に対し、
学ぶ権利の保障を
求める声明を発表

学童保育への
緊急サポートを開始

親や養育者向け
ストレスとの
つきあいかた
パンフレット公開
4/28



緊急子どもアンケート
全体版報告書発表
5/3

著名人による
#SaveWithStories
の開始
5/20

学童支援員の
ための衛生管理
オンライン講座開始
（計9回）
5/22

1都3県で
「ひとり親家庭応援ボックス」
追加支援開始
5/27

都内で「ひとり親
家庭応援ボックス」
申込開始
（5月下旬発送）

NPOスタッフや
保育士などを対象に
「子どものための
心理的応急処置」
オンライン講座開催
5/23

学童支援員のための
「子どものための
心理的応急処置」
オンライン講座開始
（計3回）
6/6

都内ひとり親家庭の
高校生を対象に
給付金提供開始
（~11月）
8月

休眠預金等を
活用した
緊急支援助成
事業開始

高校生のいる
都内ひとり親世帯の
窮状について記者会見
9月

全国学童保育連絡
協議会が電話相談会を
開始し運営をサポート
（全8回）
11/30

5月、6月につながった
ひとり親家庭に
「ひとり親家庭応援
ボックス」追加提供
12月

17,894 人の子どもたちに支援を届けました。
（大人を含め 27,037 人）2020 年 12 月 31 日時点



活動支援金の助成を受けた学童保育が
衛生用品を購入



「ひとり親家庭応援ボックス」（5月）の発送前に、
倉庫で食品などを確認するスタッフ



3月に実施した緊急子どもアンケートで多く
寄せられた言葉



「ひとり親家庭応援ボックス」
冬の緊急追加支援



「子どものための心理的応急処置」オンライン講座

“友だちがこいしい”　2020年春・緊急子どもアンケート

３月に一斉に行われた学校の休校。子どもたちはどんな思いなのか、いま何を望んでいるのか、子どもたち自身に聴きました。

2020年2月27日、全国一斉休校要請が出され、3月2日から全国約99%の学校が休校を開始しました。しかし、当事者である子どもたちの意見が聴かれることは、ほとんどありませんでした。セーブ・ザ・チルドレンは、子どもたちが休校をどう受け止め、学校の再開や進級・進学などについてどのように感じているかを子どもたちに聴き、まとめました。アンケート結果（速報版）は新聞やテレビ報道などでも取り上げられ、日本政府や行政からも関心が寄せられました。

調査方法	郵送／インターネット
回収期間	2020年3月17～31日
回収方法	所定のWebフォームへの入力／郵送、FAX、メール／協力団体・学童保育を通じて提出
有効回答数	1,422件
協力	広げよう！子どもの権利条約キャンペーン

新型コロナウイルスへの恐怖や不安、突然の休校に対する戸惑い、勉強する場を失い学力の差が生まれることへの心配や政府に対策を求める声、友だちと会えない寂しさなど、さまざまな思いが子どもたちから寄せられました。卒業式など特別な体験ができなくなったことへの喪失感や怒りを表す子どもも少なくありませんでした。また、家庭内で家族のストレスが高まっている状況も読み取れました。



子どもたちから寄せられた回答

アンケートからの声

「黒板にカウントダウンをした日数が、急に1になりました。先生が、泣きそうな顔で、次に会うのは卒業式です。と、朝の会に言った時、みんな呆然として、泣きそうになりました。泣いている子もいました」（中3）

「コロナで休みになったときはうれしかったけど、１週間くらいでいつもよりだるくなってなにもできなくなって困っている。（中略）どうやって学校モードに戻すのかわからない。この１ヵ月近く、突然不安になったり泣いたりすることが多くてしんどい」（高２）

「なぜ休校になったのかをきちんと教えてもらっていない。デンマークでは偉い人が子どもに向けてきちんと説明してくれたとお父さんが教えてくれた。日本でもしっかり話をしてほしい」（小５）

アンケート結果の速報版を公表

日本政府への要望書を提出

3月27日、受付開始から6日間の回答961件をまとめた速報版を公表し、日本政府に迅速な対応を求める要望書を提出しました。速報版は、テレビ報道などで紹介されました。また提言の一部は国会の質疑で取り上げられたり、コロナ禍に対応する文部科学省の施策検討の際に参照されたりしました。



アンケート結果を発信する記者会見

学童保育緊急サポート

働く親を支え、子どもが安心して過ごせる場を提供する放課後児童クラブ（学童保育）。一斉休校と緊急事態宣言のなかで、開室している学童保育は朝から子どもたちを受け入れ、感染予防対策に努めながら運営、閉室となった学童保育も医療従事者やひとり親世帯などの子どもを預かるといった対応をとっていました。セーブ・ザ・チルドレンは、全国学童保育連絡協議会の協力・連携のもと、活動助成や「衛生管理」講座などを通して、全国で奮闘する学童保育を支援しました。

全国 250 の学童保育に活動支援金を提供

4月に「放課後児童クラブ緊急サポート」の公募を開始、全国250の学童保育に活動支援金（一律15万円）を提供しました。支援金は、マスク、アルコール消毒液、ハンドソープなどの衛生用品はもちろんのこと、長時間保育で子どもが飽きないために、かつ物理的距離をとるために適したさまざまな遊具や文具、本の購入などに使われました。



活動支援金で購入したゲームで
早速遊ぶ子どもたち（沖縄県）

支援員のためのオンライン講座を開催

学童保育の現場からは、どのような感染症予防策をとるべきか迷いがあるなど不安や心配の声が届きました。セーブ・ザ・チルドレンは、グローバルパートナー企業であるグラクソ・スミスクライン株式会社と連携し、学童保育で安全な環境づくりを行うために、感染症や予防法、現場で取り組む衛生管理についてのオンライン講座を開催。講座は好評を得て、計9回、225学童保育から計830人が参加しました。また、セーブ・ザ・チルドレンのスタッフによる「子どものための心理的応急処置」講座も、オンラインで計3回実施しました。



医師の資格を持つグラクソ・スミスクライン
株式会社の従業員を講師に迎えて
オンライン講座を開催

学童保育支援員の声

「子どもたちが長い時間毎日学童で過ごすので、一人になれる時間を作ってあげたいと思い、一人用のテントを購入しました」（熊本県）

「学校がお休みになり、高学年は宿題はいつも以上に出されているので、国語辞典、その他辞書などを購入しました。逆に低学年は宿題も少ないので、長期休校の中でも学童で勉強を進められるよう子ども用ドリルを購入。学習の時間を増やし子どもたちも頑張って勉強しています」（岡山県）

「（衛生管理講座を受けて）大規模学童での避けられない密の予防策ばかり考えていましたが、ウイルスを持ち込まない、持ち出さないと言う基本の行動を徹底することが第一前提である事を気づかされました」（埼玉県）

学童保育電話相談

感染症の影響が長期化するなかで、全国学童保育連絡協議会が9月から、学童保育にかかわる保護者や支援員など関係者のための電話相談を開始しました。セーブ・ザ・チルドレは、計8回の電話相談会の運営をサポートしました。

マスクの支援

マスクが品薄だった時期に、学童保育や台風 19 号で被災した東北のこども園などに計 1 万 6,000 枚のマスクを支援しました。
※マスクは企業などからご提供いただきました。

“命や人間として生きるための尊厳まで守ってもらえた”
ひとり親家庭応援ボックス

３月に実施した緊急子どもアンケートに寄せられた「はらへった」「お昼ごはんどうするか、お金かかる」の子どもの声。緊急事態宣言下などでとりわけ厳しい状況が続くひとり親世帯に、食料品や遊具などを提供しました。

5月下旬、お米や副菜となるレトルト食品や調味料、お菓子などの食料品や子どものこころのケアに関するリーフレット、また希望する世帯には遊具も詰めた「ひとり親家庭応援ボックス」を、東京都内のひとり親310世帯へ届けました。募集開始翌日には申込みが終了、「水で空腹をしのいでいる」など経済的な困難を抱える世帯の厳しい食生活の現状を痛感しました。そのため6月には、東京、千葉、神奈川、埼玉の1都3県に対象を拡げ、1,010世帯に「ひとり親家庭応援ボックス」を提供しました。さらに、新型コロナウイルス感染症が再び急拡大した12月に、年末年始を安心して過ごせるよう5月、6月につながった世帯1,181世帯に支援を届けました。

※「ひとり親家庭応援ボックス」は個人・法人のご寄付および企業各社からの食品・日用品のご提供により実施しました。



届いたおもちゃで早速遊ぶ子どもたち。（6月）



「ひとり親家庭応援ボックス」の確認作業。（12月）



届いた食品に興味津々の子どもたち。（12月）

応援ボックスを受けとった方の声

「私達のために、食品おもちゃを提供して下さった方がいる、それを手配してくれた方がいる、ダンボールに梱包して下さった方がいる、重い思いをした方がいる、、全てに感謝しながらでした」

「たくさんの食料品や、日用品が届きました。これで安心して、年を越せます」

「命や人間として生きるための尊厳まで守っていただけたことで、また明日から頑張れる！って気持ちになりました」

「色々と不安に考えてしまう気持ちの今でしたが、活力を貰った様なポン！と背中に手を添えて貰った様な、力が湧いてきたボックスでした」

申請時の質問項目や、その後の利用者アンケートから浮かび上がったひとり親世帯の暮らし・子どもの学習環境をまとめ、報道やオンライン報告などを通してその窮状を社会に広く伝えるとともに、より手厚い支援を行うよう行政に働きかけました。また、都や県、区市町村の議員40人以上に直接またはオンラインで面会し、各自治体での施策が充実するよう意見交換しました。



“給付金で背中を押してもらった”
緊急子ども給付金

新型コロナウイルスによる家計の悪化は、子どもたちの学ぶ機会や進路にも影響を及ぼしました。高校生の学校生活に関わる経済的負担を軽減するために、「緊急子ども給付金～東京都内ひとり親家庭・高校生活サポート～」を行いました。

8月から11月にかけて、東京都に居住し、新型コロナウイルスの影響で家計の収入が減った世帯など一定の条件を満たしたひとり親家庭の高校生400人（355世帯）に、1人あたり3万円の給付金を届けました。受給世帯からは、コロナ禍におけるひとり親家庭の厳しい現状、高校生活にかかわる費用が支払えないことや就学の継続が困難な状況、さらに、高校生への公的な経済支援が不十分であることなど、さまざまな声がありました。申込時に受給世帯に実施した調査結果は、テレビニュースや新聞で紹介されました。これらの結果をもとに、国や都へ高校生などへの支援を拡充するよう求めました。

保護者からの声

「この度、第一志望のＡＯ入試で受験し、合格の通知を受けました。給付金は、受験費用として使わせていただきました。大学進学を希望していたものの、あれこれ考えてどうしようかと思っていたときに、こちらの給付金で背中を押していただいた気がしております」


給付金を活用して大学を受験・合格し、うれしそうに合格通知を持った写真を送ってくれた高校生

休眠預金を活用し、
全国17団体の活動を緊急助成

舞い上がれ 社会を変える みんなの力
休眠預金を活用した事業です

事業総額 **213,205,720** 円
（うち17団体への助成総額は 178,601,660円）
※2022年3月終了予定

休眠預金等活用法に基づき、8月から新型コロナウイルス対応緊急支援助成事業を新たに開始。食料品・弁当配布などを通じた1）食の状況の改善、2）学習支援や芸術活動など学びの機会の提供、3）相談対応など子ども虐待の予防・保護の3つを柱に、社会経済的に困難な状況に置かれやすい子どもたちを対象とした事業を行う全国17団体に資金助成を行っています。また、「子どものセーフガーディング」や衛生管理、「子どものための心理的応急処置（PFA）」の講座を実施するなどして、各団体への伴走支援も行っています。



神奈川県で外国ルーツの子どもへの学習指導や進路相談などを行う特定非営利活動法人日本ペルー共生協会



沖縄県那覇市内で弁当を宅配する一般社団法人ビクトリーチャーチのスタッフ

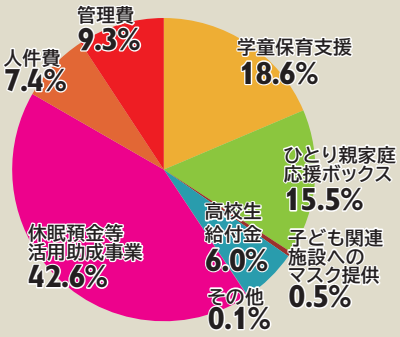
会計報告

支出
計 **202,305,505円**
（2020年2月～12月末）

個人の皆さまや法人の皆さまからのご寄付により、コロナ禍の緊急支援を実施することができました。

事業名	金額
学童保育支援	¥37,653,340
ひとり親家庭応援ボックス	¥31,442,223
子ども関連施設へのマスク提供	¥1,023,000
高校生給付金	¥12,108,598
その他 （初動調査、研修実施等）	¥101,981
休眠預金等活用助成事業 （実行団体活動助成・伴走費）	¥86,212,177
人件費	¥15,050,406
管理費	¥18,713,780
合計	¥202,305,505

支出の割合



※2021年2月末時点

自然災害の被災地で、紛争地で―。
世界にはまだ支援を必要としている子どもたちがいます。

危機に備え、未来を守る
「いのち・みらい貯金箱」で、
自然災害や人道危機の緊急事態に対応します。



いのち・みらい貯金箱へのご支援にご協力ください

クレジットカードからの寄付

パソコン
スマートフォン

パソコン・
スマートフォンから
ご寄付いただけます。

いのちみらい貯金箱　検索

郵便局(ゆうちょ銀行)からの寄付

郵便振込口座：**00190-8-791030**
加入者名：いのち・みらい貯金箱

※ 備考欄に「いのち・みらい貯金箱」とご記入ください。※ 振込手数料はご負担をお願いしております。※ 領収証ご希望の方は、振込用紙通信欄にその旨ご記入ください。

■ 企業としてのご寄付のご要望・ご相談については、下記までお問い合わせ下さい。 ■ セーブ・ザ・チルドレン・ジャパンへのご寄付は、税の控除を受けることができます。

セーブ・ザ・チルドレンは、
子どもの権利のパイオニアとして
100年の歴史を持つ、
子ども支援専門の国際組織です。

セーブ・ザ・チルドレンは、日本を含む世界120ヶ国で子ども支援活動を行う、民間・非営利の国際組織です。子どもの権利が実現された世界を目指し、1919年から活動しています。



Save the Children

公益社団法人 セーブ・ザ・チルドレン・ジャパン
〒101-0047 東京都千代田区内神田2-8-4 山田ビル4F
TEL: 03-6859-0070（平日9:30～18:00）
www.savechildren.or.jp

2021年3月発行